

もし自らの身体を眺め、今、健康に生きている
と言い切れなかったら・・・

三年飲んで治らぬものが、五年飲んで本当に
治ると思ってくれるのでしょうか。

掛け替えのない人生という時間、毎日苦痛に
費やしてはいないでしょうか。

いや、何より今の延長に真の健康の姿、生き
生き暮らす景色が待っていると信じてられる
のでしょうか

本当に今の処方で治るのなら、もうとっくに
治っていてもおかしくはありません・・・

長年信奉されてきた「人が一方的に施される
治療効果」の限界から従来の医療概念が脆く
も崩れ去り、相反し医療費問題にも行き詰ま
る日本。

結果を突きつけられ、ようやく気づき始めた
人々から、必然的に人の身体の内へ意識が向
かい、「生きることを養う養生」への関心が集
まっています。

養生（身体のしくみを使い身体の力を引き出
すこと）が、あらゆる治療効果に繋げる「究
極の対症療法」であり、
治りやすい身体を自ら養う意味で医療費問題
解決の「究極の根源療法」になる。

人が元々与えられた力を使うこと、自然界に
あり当たり前の基本に戻れと教えられている
気がしてなりません。

今、難病をはじめ人が治ることに於いて、そ
こはかたない自信があるのは、数えきれない
結果を出しているのは当然のことながら、

「身体の実は悠久の時を流し必要とされる時代に必ず降りて来ると信じているからなのです」

mixs.

病 克服への身体ホットライン



世界遺産 奈良薬師寺の龍 松本孝一 撮影